

眞下信一 ましたけ 哲學者。明治二十九年十月、二十四日京都生れ、昭和

六十年、二月九日歿（一九六二一八五）。筆名秋田徹。昭和四年京都帝國大學

文學部哲哲學科卒。八年同志社大學教授となり、中井止一を中心とする新村

猛、和田洋一等と雜誌『世界文化』創刊に参加。十二年人民戦線事件

に檢舉。二十二年名古屋大學教授、四十五年多摩美術大學學長。

譯著書、リッケルト著『フイヒテの無神論論争』とカント哲學』（譯

昭和五年六月）二十日岩波書店「哲學論叢」）、ヘーゲル著『小論理學

（哲學體系Ⅰ）』（脇坂光次共譯、昭和七年十一月十五日岩波書店

「ヘーゲル全集」）、同『哲學史』（譯、中巻ノ二、昭和十六年十一

月十五日、中巻の一、二十六年十一月二十日岩波書店「ヘーゲル全

集」）、『主體制論争』（編、昭和二十二年十月十日白揚社）、『實

存主義者サルトルのこゝろ』（合著・森隆編、昭和二十二年十一月

五日葦美社）、『哲學の現代史』（合著・古任由重編、昭和二十四年

四月十日文化評論社）、『大學生活』（合著・天野貞祐編、昭和二十

四年五月、二十五年光文社）、『愛のなやみ死をおそれるもの』（今白の

生きぬく心）』（合著・理論編集部編、昭和二十五年十一月十日理論

社）、『教育を守るための心』（合著・關口泰編、昭和二十九年二月、一

十八日松林書房）、『映画の中の女性像』（福田淳共著、昭和二十一年

年一月十五日河出書房「河出新書」）、『師・友・読書』（合著・渡

邊一夫編、昭和二十一年九月、二十日河出書房「河出新書」）、『死の

際する七十の章』（編、昭和二十二年七月十五日（二）書房）、『人生

の道標―若い友への手紙』（合著・「人生手帖」編集部編、昭和二十

四年、二月十日文理書院）、ルイ・ス著『マルクス主義と倫理なき精神』

(共訳、昭和二十四年四月、二十日岩波書店「岩波現代叢書」)、可思  
想の現代的条件―哲学者の体験と考察―(昭和四十七年七月、二十日岩  
波書店「岩波新書」)等。